

カルロスさんと私

—自分の考えを強く持っている人—

P班 武田 晴香(たけだ はるか)

1. カルロスさんの印象

これまでの授業でカルロスさんと一緒に活動してみて、いろいろな印象を持ちましたが、その中でも気配りが上手いことが特に強く印象に残りました。授業中に4人で1枚のプリントが配られたときに私が見やすいようにプリントの向きを変えたり、班の中で会話が途切れたときに話題を提供したりと、細かいことですが周りの状況をよく見て他の人を気遣っていると思いました。また、同じグループの石岩さんが授業中面白い発言をすると、すかさずカルロスさんが絶妙な突っ込みを入れます。これは相手の発言に気を配っていないとできないことだと思います。私はなかなか周りの人に対して気を配って行動することができないので、思わず尊敬したくなります。このようなことからカルロスさんに対する第一印象として「気配り上手な人」というものが思いつきました。

その後3回のインタビューでカルロスさんからじっくり話を聞いていくうちに、カルロスさんはその場の状況や感情に流されて行動するのではなく自分の判断基準や考え方を強く持って行動しているということが分かってきました。(詳細は後述)したがって標題の印象の部分を「自分の考えを強く持っている人」に変更しました。

2. 特に聞きたいテーマ:①人と接するとき大切にしていること ②サッカーについて

【①人と接するとき大切にしていること の設定理由】

5月30日の授業でカルロスさんと話をしてみて、学生同士で敬語を使うべきかについて議論が盛り上がりました。カルロスさんの考えでは、敬語を使うことはかえってお互いの間に打ち解けにくい雰囲気を作ってしまうので、学生同士なら学年が離れていても敬語を使わなくてもよい、ということでした。一方、私は同学年の人であれば敬語を使わなくてもよいが、学年が上の人には敬語を使うほうがよいという考えでした。実際、高校や中学校では先輩と後輩の上下関係がしっかりしており、先輩に対して友達にするような話し方を使うことは絶対にやってはいけないという暗黙の了解がありました。だから私も先輩には常に敬語を使うようにしていました。このような考え方の違いには、もちろん生まれ育った国や文化の違いが少なからず影響していると思われれます。しかし、敬語の使い方に限らず人との接し方は、文化の違いだけでなくその人自身の価値観といった様々な要因によって変化し、その要因を知ることにより相手のことを理解でき、人間関係をよりよくすることにもつながると私は思います。そこでカルロスさんが人と接するとき大切にしていることについて聞き、そのことを通じてカルロスさん自身の文化について一端でも知ることができればよいと考え、第一のテーマを設定しました。

【②サッカーについて の設定理由】

第一のテーマである「人と接するとき大切にしていること」については、5月30日と6月20日の授業内のインタビューでかなり多くのことをカルロスさんと話しました。これ以上そのテーマについて深く掘り下げることは私の力では難しいと感じたため、ここまでで得られた結果を生かしながらも全く別の角度からカルロスさんについて知りたいと考

え、4月の授業でカルロスさんが好きだと話していたサッカーについて話を聞いてみることにしました。

3. 話し合いの成果

3.1 5月30日(木)の話し合い

この回は散歩の次の回で、本格的なインタビューが初めてだったのでいろいろな話題について聞いてみました。まず、なぜ秋田に留学することに決めたのか尋ねてみると、日本政府の国費留学プログラムの中で最も興味深い内容だったのが秋田大学のプログラムだったからだと話していました。日本に来てチリとの違いに驚いたことの話になり、チリでは同じ学年の人、または学年が離れていても年齢がほとんど同じ人には面識がなくても敬語を使うことがないのに対し、日本では同じ学年の人でもあまり面識のない人に敬語を使う場合があることに違和感を抱いていたことが分かりました。私は普段から知らない人に対して敬語を使うことを当たり前のように思っていたので、カルロスさんの人付き合いに対する考え方について興味を引かれ、次回もその話題について話し合うことにしました。

3.2 6月6日(木)の話し合い

授業時間内に般 1-302 教室の後ろの方でインタビューを行い、テーマは「人と接するとき大切にしていること」でした。前回に引き続き、学生同士で敬語を使うかどうかについての話から始まりました。詳しく聞いてみると、先生やお年寄り、友達の親など目上の人に話す時や真面目なときは敬語を使うものの、学生同士では敬語を使うと関係が離れていってしまうのであまり敬語は使わないということでした。チリでは全体的に学生同士で敬語を使わない傾向があり、特にカルロスさんの場合、大学1年生のときに自分が20歳で、当時の2年生が18歳や19歳の人が多かったため、なおさら敬語を使うことが不自然に思えるのではないかと思います。私が学生同士でも敬語を使う理由は少なくとも2点考えられます。第一に、私を含めて日本では先輩に対して敬語を使うことが中学校や高校の頃から暗黙の了解としてあり、敬語を使わないことが失礼に当たるのではないかと感じるため、というものです。第二に、知らない人に対して敬語を使わないのはなれなれしく失礼だという感覚があるから、というものです。自分の育った国の文化が少なからず影響しているようです。

ちなみに、カルロスさんの母国語であるスペイン語では、日本語と比べて敬語の文法的ルールがはるかに単純で、2人称や3人称の呼び方を変えるだけで敬語が成立するそうです。(詳しいところまではよく分かりませんが) その点日本語では尊敬語に謙譲語に丁寧語と、覚えることがたくさんある上に使い分けが難しく、今でも苦勞することがあると語っていました。話し方から相当大変だったのだろうということが伝わってきました。

一通り敬語についての話が済んだところで、単刀直入に人と接するとき大切にしていることは何かと質問してみたところ、このような答えが返ってきました。

- ・初対面の人に対しては、相手の雰囲気を見極め、しばらく付き合ってみてその人がどんな性格かを会話や行動などを通して引き出し、信用できそうなら仲良くするようになっている。相手が何か悪いことを考えていたり、自分が大切にしているものに

対する考えが大きく違ったりする場合は、付き合わないようになっている。

- ・初対面の段階で友達として付き合おうと決めた人と接していて、自分が好きでないと考えたことがあるときや、自分が大切にするものに対する考え方が違うようなときは、直接友達にそのことをはっきり話し、相談した上でどうするか決める。

人と接するというよりは人と付き合うときに大切にしていることという内容ですが、私は人付き合いがそれほどうまくないので、この話を聞いてカルロスさんを尊敬せずにはいられませんでした。将来のことを考えて人を選んだり問題に対処したりするのは大切でありながらも難しいことだと思うので、それをうまくやっているカルロスさんは本当にすばらしいと思いました。2つめの項目について、私はどちらかという友達とのつきあいで嫌なことや重要な意見の食い違いがあっても我慢してしまう方なので、この点は私の考え方と大きく違っていました。

比較的重いテーマについて聞いていましたが、カルロスさんはとても丁寧に答えてくれたので、申し訳なく思いながらも本当にありがたかったです。

3.3 6月20日(木)の話し合い

前回同様授業時間内に般 1-107 教室から般 1-302 教室に移動し、細長い教室の後ろの方に席を取ってインタビューを行いました。この回はそれまでとテーマを変えて以前カルロスさんが好きだと話していたサッカーについて聞きました。ここまで話し合ってきたテーマでこれ以上深く話を進めることが難しいと感じ、全く別の切り口で話を聞いてみようと考えたからです。

最初にサッカーはするほうが好きか、それとも見るほうが好きかと聞いてみたところ、どちらかというとするほうが好きだ、と答えてくれました。この質問をきっかけにカルロスさんはこれまでのサッカーとの付き合い方について質問していないことまで話してくれました。本当にサッカー好きカルロスさんは5歳のころにサッカーを始めましたが、あまりうまくプレーできず1年ほどで入っていたサッカークラブを辞めてしまいました。それでも友達と遊びでサッカーをすることは多く、ゴールキーパーがうまいと言われたこともあるそうです。高校生の時にはプロのサッカーチームに入ることも考えましたが、キャリアが15歳から29歳までと短いことや引退後の就職の大変さを考え、プロは目指さないことにしたということでした。大学に入ってから忙しさのためサッカーをすることはまずないということでしたが、趣味のスポーツとしてサッカーは良いと語ってくれました。

次に、サッカー観戦が好きか聞いてみたところ、見るのも好きだと答えてくれました。好きなチームはあるか聞くと、特定のチームが大好きというわけではなく、チリのクラブチーム全体が好きだったり、ワールドカップなどに出場するような代表チームが好きだったり、どちらかという(特にチリの)サッカー全体が好きだと話していました。カルロスさんはサッカーを見るとき選手のチームワークや作戦に注目して見ているので、チームに関係なく誰かがゴールを入れることを楽しみにしているそうです。ある一つのクラブチームのファンになることではなく、チリのサッカー全体が好きだと思う背景にはこのことが関連しているのかもしれないと思いました。また私はあまりスポーツ観戦をしないので実体験は少ないのですが、プロ野球全体が好きだという友達がいたので、カルロスさんのようなサッカーの見方も分かるような気がしました。カルロスさんの出身

国であるチリでは、他の南米の国々と同じようにサッカー人気が高く、ワールドカップでチリ代表が試合をする日には観戦を理由に仕事を休む人が出たり、海外での試合を人口の半分近くの人が見に行ったりすることもあるほどなのだそうです。時差の関係で未明に海外からの生中継の試合がある場合は、夜通しバーベキューをしたり、週末にはパーティーを開いたりして試合開始までの時間を過ごすことが多く、サッカーは人々の楽しみの一つであり、国民的スポーツといえるような人気があるようです。一方でライバルチームのファン同士で試合中ケンカや乱闘になることもあり、カルロスさんはスタジアムには怖くて観戦に行けないと話していました。また、乱闘が起こるのは自分の応援するチームが負けた（または負けそうな）時に自分のチームを守りたいという感情が高じたためなのだそうです。カルロスさんはその気持ちがあまりよく分からないとも話していました。その場の感情だけに流されないで物事を考えるというカルロスさんの印象がよく表れた一言だったように思いました。

インタビュー中は終始カルロスさんが質問なしでも多くのことを話ってくれたので、私が質問した回数は（私の力不足もあってか）かなり少なかったように思います。私がいあまりサッカーを見ない（見るのは主にフィギュアスケート、高校野球）と言ったところ、カルロスさんにとても驚かれたので、カルロスさんが本当にサッカー好きなのだということがうかがえました。

4. まとめ

カルロスさんにとって、人と接する（付き合う）ことは相当な注意力や先見性、発言力を使うことで、サッカーは見るのもするのも楽しく、本当に大好きなスポーツである、ということが言えそうです。

インタビュー全体を通して、カルロスさんはその場の感情だけで判断せず常に先のことを考えて行動しているということがわかりました。人付き合いでは人の見極めや友達とのすれ違いへの対応がきちんとしており、サッカーでは他の一部のサッカーファンが暴徒化する一方で冷静に試合を見る、といった点にこのことがよく表れていると思います。私も比較的慎重に考えて行動する方だと思っはいますが、途中でうまくいかなくなると面倒になってその場の気分で行動してしまい、失敗したりいい加減な結果に終わったりすることも時々あるので、その点カルロスさんを見習わなければならないと思いました。このこととは少し対照的ですが、違う意見の人に自分の意見を率直に話すなど、自分の考えを強く持っていてそれを他者にはっきり伝えられる意志の強さもあると思いました。これらのことから、カルロスさんはタイトルにもあるように「自分の考えを強く持っている人」である、というのが私の最終的な印象となりました。

一方で、5月30日の話し合いでは、カルロスさんは一旦人と打ち解けるとうまく話せるけれども初対面の人に話しかけるきっかけをつかむのが苦手だと話していました。私も全く同じだったので、この点についてはとても共感できました。

カルロスさんと話していて、私が質問する前に様々なことをどんどん話してくれる場面が多く、どこで質問を入れるか迷うこともありましたが、私が予想していなかったこともたくさん聞くことができたので本当に楽しいインタビューができました。カルロスさん、本当にありがとうございました。

5. 授業を終えて

5.1 文化、コミュニケーションとは何か

「文化」と聞くと、国や地域単位での文化の違いを考えることが多いように思います。しかし、ある人がそれまでの人生の中で作り上げてきた価値観といった、その人自身の文化というものも確かに存在し、それは同じ国に生まれた人同士であっても異なるものであるということを、このクラスを通じて実感しました。そして、コミュニケーションとはただ単に自分の聞きたいことを一方的に聞くだけのものではなく、相手に対する理解を深めるための大切な手段であると思いました。だからこそ、相手の表情や反応を見て相手の気持ちを推し量ることも重要であり、相手に共感することも時に大切であるのではないかと考えました。

5.2 授業について

一人の人に対してじっくりインタビューすることはなかなかないので、どのような話題から入ってよいか分からず非常に苦労しました。特に、テーマを掘り下げられるような質問を考えるのがとても難しく感じました。しかし、回を重ねるごとに少しずつ質問をすることに慣れ、このクラスは質問する力をつける良いチャンスになりました。インタビューを始める前の段階で上手な質問の仕方を教えてもらえたらもっと良かったと思います。